

# Risk Flash No.185 (Vol.5 No.27)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- リスク研究センター活動報告：第7回世界水フォーラムにおいて滋賀大学のセッションが承認・・・Page 1-2
- リスク研究センター通信・・・Page 2

## リスク研究センター活動報告

### 第7回世界水フォーラムにおいて滋賀大学のセッションが承認

くぼひでや  
リスク研究センター長 久保英也

琵琶湖は日本の環境取り組みの象徴であり、それは国内のみならず国際的にも評価されています。現在、環境とりわけ水に対する興味は世界的に高く、これをテーマとした世界最大の国際会議である第7回世界水フォーラムが韓国のデグ市で開催されます。滋賀大学リスク研究センターはこの世界水フォーラムのメインである「テーマプロセス」に国際協力協定を結んでいる韓国啓明大学と共同しての自分たちのセッション設置を申請していましたが、激しい競争を勝ち抜き以下のとおり採択されました。

報告分野は、大きく4つに分かれるテーマプロセスの中のひとつで「すべての人のための水の安全保障：持続可能な水資源管理とサービスのためのインフラ」です。そこに、「Proposals of municipality organization and financial scheme indispensable to joint water management of "Lake-River-Inland sea"」（セッション番号 1-4-5）というテーマを持ち込みます。ちなみに同分野で採択されたセッションはフランスと中国のセッションです。

このセッションは、琵琶湖－淀川－瀬戸内海という閉鎖性水域の環境保護をどのように進めるかを議論し政策提案するもので、報告する研究内容は、流域の統合管理を促進する新たな地方自治体連合の機能発揮と金融市場を使った環境のリスクファイナンス（環境保険や環境破壊をトリガーとした証券化など）の提案であり、現在準備を進めています。まさに環境とリスクを柱とした滋賀大学の研究能力を世界に向けて発信する絶好の機会になると考えています。

頭でっかちのセッションにならないように、研究者と政策運営者である地方自治体の首長を組み合わせ、そこでの提案が政策形成に直結するように配慮しました。具体的にはこのセッションのメンバーと分担（案）は以下のとおりです。

- (ア) 井戸敏三兵庫県知事、関西広域連合長：瀬戸内海の環境管理、関西広域連合の取り組み。
- (イ) 三日月大造滋賀県知事：世界湖沼会議の内容、滋賀県の独自取組み（マザーレイク計画などこれまでの対応と今後の対応）。
- (ウ) 嘉田由紀子びわこ成蹊スポーツ大学学長、元滋賀県知事：子供と環境教育と琵琶湖淀川流域対策に係る研究会報告など。
- (エ) 啓明大学（柳社会科学大学学長）：「流域管理など効果的な水資源管理のための水産業クラスターの構築」。
- (オ) 久保英也滋賀大学教授、リスク研究センター長：「琵琶湖の水、森林を守る環境リスクファイナンスの提案」。

なお、セッションのコーディネーターはリスク研究センター長の久保が担当します。

世界水フォーラムには、このセッションの設置と同時に滋賀県と共同して、ブースも出展します。これらを通じ、滋賀大学の存在を世界に向けて存分にアピールしたいと考えています。

(ご参考)

○第7回世界水フォーラムの概要<[www.worldwaterforum7.org/en/home/index](http://www.worldwaterforum7.org/en/home/index)>

(ア) 開催期間、場所

- ①期間：2015年（平成27年）4月12日（日）～17日（金）
- ②開催地：韓国 テグ（大邱）市及び慶尚北道：EXCO（デグ市）、HICO（慶州市）
- ③主催：世界水会議（WWC）、第7回世界水フォーラムホスト国：韓国（韓国国土交通部<日本の国土交通省>、外交通商省<同外務省>、大邱広域市、慶尚北道）
- ④スローガン：「Water for Our Future」
- ⑥参加予定者：30,000万人（国際機関、各国政府・地方政府、研究者、市民グループ、企業・事業体など）。前回のマルセイユ開催の場合：15名の国家元首・首脳、173ヶ国の代表団、103名の閣僚級、250名の首長、250名の議員、900名の報道関係者を含め、政治・行政・民間（企業）・学界・市民社会（子ども・ユース含む）30,000名が参加（うち、水のエキスポ（展示会）来場者は16,000名）。

(イ) 過去の世界水フォーラムの開催地と参加者数

- 第1回：1997年 モロッコ（マラケシュ）<63ヶ国 500名>
- 第2回：2000年 オランダ（ハーグ）<114ヶ国 5,700名>
- 第3回：2003年 日本（京都・滋賀・大阪）<183ヶ国 24,000名>
- 第4回：2006年 メキシコ（メキシコシティ）<168ヶ国 20,000名>
- 第5回：2009年 トルコ（イスタンブール）<192ヶ国 33,000名>
- 第6回：2012年 フランス（マルセイユ）<173ヶ国 34,000名>
- 第7回：2015年 韓国（テグ市及び慶尚北道）<170ヶ国以上、30,000名予定>

## リスク研究センター通信

①陸上競技部 関西学生対校駅伝に4年連続出場決定！

詳しくは、<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1641&r=0> をご覧ください。

②経済学部学生が「学生エッセイコンテスト」で第2位に選ばれました

詳しくは、<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1638&r=0> をご覧ください。

### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・変更してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

\*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

\*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、  
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>